

令和 7 年 度
県立高等学校入学者選抜
学力検査問題

国 語

注 意

- 1 「始め」の合図があるまでは、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 問題用紙は、表紙を入れて11ページあります。
また、問題は大問【一】から【五】まであります。
- 3 答えは、必ず解答用紙の所定の解答欄の枠内に収まるように記入
しなさい。
- 4 答えは、HB以上の濃さの黒鉛筆を使用して記入しなさい。
(シャープペンシル等も可。)
- 5 「やめ」の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。

【一】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

佐吉は寝勝手をかえて、仰向きを横向きにしたが、首だけを少しよじって、下側になるほうの耳を枕からよけるようにした。台所のものを音をきいていたのだった。

台所で、いま何が、どういう順序で支度されているか、佐吉はその音を追っていた。台所と佐吉の病床とは障子一枚なのだから、きき耳たてるほどにしくても、音はみな通ってくる。けれどもそこで仕事をしているのがあき一人きりのときは、聞く気で聞いていなければ、佐吉の耳は外されてしまふ。あきはもとから静かな台所をする女だが、この頃はことに静かで、ほんとに小さい音しかたてない。いまも手伝いの初子を使いに出した様子だから、あき一人である。女房のたてる静かな音を追っていると、佐吉は自分が台所へ出て仕事をしているような気持ちになれる。すると慰められるのだった。

痛みや苦しみがない、ぶらぶら病気を病んでいれば、実際手持ぶさたなのだ。だから、身は横にしても、気持ちがそれからそれへと働いていけばうれいのである。こんなに寝込んでしまつて一カ月前までは、ずっと自分が主人でやってきた、手慣れた台所仕事なのだ。目に見ずとも音をきいているだけで、何がどう料られていくか、手に取るようにわかるし、わかるということはつまり、自分が本当に庖丁をとり、さい箸を持って働いているに等しいのだった。週刊誌もくたびれるし、ラジオも自分の好みのものをいつも必ず放送しているわけではないし、なによりもいまだ病む心憂さの晴れるのは、台所の音をきくことだった。

「しゃあ、と水の音がした。いつも水はいきなり出る。水栓をひねる音はきこえないのである。しかし佐吉は、水が出だすと同時に、水栓から引込められるあきの手つきをおもひうかべることができる。そんな手つきなど今迄に注意しておぼえたことはないのだけれど、しよっちゅう見て目の中に入っていたのかとおもう。あきは中指と親指だけをかけ、あとの三本はガンコなように結んで、水栓を扱うくせがある。

水栓はみんな開けていず、半開だろうとおもう。そういう水音だ。受けているのはいつも使っている洗桶。最初に水をはじいた音が、ステンレスの洗

佐吉の病気は、去年の秋からだ。秋はやくに風邪をひいた。売薬一瓶を何錠かあましてなおったが、あとにへんな疲労感があってとれなかった。本病の風邪はさしたことがなくて、病みづかれのほうがつく停滞し、けだるがった。根気が減り、顔色が沈んでしまい、食事がすすまず、瘦せた。夏の暑さまけを持ち越しているのだ、と自分ではいつていた。ちようど店の忙しくなる時季だったから、休んでもいられず、市場へは毎日買出しにいった。こたえるらしかった。仲間が、ついでに仕入れしてきてやる、といったが佐吉はでかけた。その瘦我慢はたまたとおもう。正月の小豆がゆから床についた。その時やと医者へいった。医者は胃だと診断した。食事の制限が命じられ、東大あたりでよく検査してもらえといわれた。

なか川、という小さい料理屋を、あきと初子を助手に、やっていた。姓からとった屋号だった。客室は八畳と四畳半の二の間。五人か、詰めて六人しか客はとれないが、それで丁度いいのだった。戦後すぐに建った、バラック住宅のひどいものだが、安く買つて安い手入れをして、体裁よく住み、都合よくした。だから家のまんの床をおとして台所にし、台所の両側へ茶の間と奥の四畳半を一行におき、廊下をはさんで八畳とはばかりという間取りである。まわりは中小のメリヤスや木綿品の問屋が多く、少しはなれたところにはいい料亭も並んでいるが、なか川はなか川で重宝がられている。けちなうちだが、家より佐吉の味のほうがずっと上なので、そこが気に入られていた。佐吉は承知して、どの客へも自分の神経を使った料理を出した。そして、病んでつくづく思うのは、自分は食べものをこしらえる他には用のない男で、それをしてる限りは手持ぶさはなかったし、慰められていた、ということだった。

(幸田文「台所のおと」による。設問の都合上、一部改変してある。)

(注) ※1 寝勝手…寝ている向き。寝方。

※2 料られていく…料理されていく。

※3 小豆がゆ…小正月である一月十五日に小豆の入ったかゆを食べて疫病を払うという風習がある。

※4 バラック住宅…急造の粗末な建物。

※5 はばかり…便所のこと。

※6 メリヤス…布地の一種。

桶以外のものではなかった。水はまだ出しつづけになっている。きつと桶いっぱいに汲む気だろう。水の音だけがして、あきからは何の音もたつてこない。が、佐吉には見当がついている。なにか葉のものの下ごしらえ——みつばとかほうれんそう、京菜といった葉ものの、枯れやいたみを丹念にとりのける仕事をしているにちがいない。その仕事は、障子の仕切りを越して聞こえてくるほどの音は立てないから、あきから何の音もきこえてこないのだ。葉ものごしらえをしているとすれば、もうじき水は止められる筈だ。なぜなら葉ものの洗いは、桶いっぱい張った水へ、先ずずぶりと、暫時つけておいてからなのだ。浸しておきあいたは、呼吸を十も数えるほどでいいのだが、その僅かのひまも水の出しっぱなしはしないこと、というのが佐吉のやりかたで、佐吉は自分の下働きをしてくれるひと誰でもに、その方式をかたくまもらせていた。無論あきがその手順を崩したことはないし、決して無駄水を流すような未熟なまねはしなかった。だから、桶はもうじきいっぱいになるし、そこで水音がとまれば、あきが葉ものごしらえにかかっている、という見当づけは多分あたるのだが——やはり水はとめられた。あきは棚のほうへ移つてなにかしている気配で、やがてまた流し元へもどると、今度は水栓全開の流れ水にして、葉を洗いあげている。佐吉はその水音で、それがみつばでなく京菜でなく、ほうれんそうであり、分量は小束が一把でなく、二把だとはかって、はつとする安らぎと疲れを感じる。

「きようはどこだつてな？」

「小此木さん三人の、小部屋のほうは塚本さんだけだ。」

「気をつけろよ。小此木さんはちよつぱり文句屋だ。」

「ええ——そりやそうと、あなた気がつきませんか？　うちの初子、塚本さんとこの上田さんに気があるらしいんだけど、あたしはどうも上田さんてひと、虫が好かなくてねえ。」

「うむ。でもまあ、初子が虫が好くのなら仕方もないしな。どうかあつたつていうのか？」

「いえいえ、そんなのじゃない。まだ、初子の気が浮いてるようだ、というだけの私のカンなのよ。形になんかなつてるものではないとおもうわ。」

(中略)

問1 二重傍線部aの漢字の読みをひらがなで書き、bのカタカナは漢字に直しなさい。(丁寧な書くこと)

a 支度 b ガンコ

問2 二重傍線部c「虫が好かなくて」の本文中での意味として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア なんとなく好感が持てない。 イ どこことなく風情がない。
ウ まったく魅力を感じない。 エ それほど嫌悪感がない。

問3 傍線部①「病む心憂さの晴れるのは、台所の音をきくことだった」とあるが、それはなぜか。それを説明した次の文の空欄 i、ii に当てはまる語句を、本文中から抜き出しなさい。ただし、iは十五字以上二十字以内で、iiは四字で抜き出すこと。

台所の音を聞いていると i になり、 ii から。

問4 本文から読み取れる佐吉の人物像の説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 料理を生きがいとし、ひたむきに仕事と向き合う人物。
イ 妻に台所作業を一任できず、事細かに口出しする人物。
ウ 見た目の美しさを重視し、料理への手間を惜しまない人物。
エ 料亭よりも人気のある料理屋を営もうとする野心的な人物。

問5 この文章を読んだAさんは、本文中の波線部X・Yの「水」の描写による効果について「フート」にまとめた。次の「フート」の空欄①、②に入る説明として最も適当なものを、後のア～エのうちからそれぞれ一つ選び記号で答えなさい。

フート	
本文中の描写	表現の効果
X「しゃあつ、と水の音がしだした」	1
Y「やはり水はとめられた」	2

ア 勢いよく出る水の音で、病氣のために台所に立てない佐吉に代わって、店を切り盛りしようと思ひ込むあきの姿を象徴的に表現している。
イ 台所の音を聞いていた佐吉の心情を描いた場面から、佐吉が台所の音を聞いて料理の工程を把握していく場面へと転換させている。
ウ 病床から起き上がれず不安を抱く佐吉とは対照的に、台所で手際よく働くあきの躍動感あふれる様子を印象づけている。
エ 台所に立たずとも、音だけを聞いて、あきが何を料理しているかを佐吉が正確に把握できていることを強調している。
オ あきが佐吉の教えどおりに料理をしていることを表し、従順なあきに気をよくしている佐吉の様子を際立たせている。
カ 台所から聞こえる音を中断させることで緊張感を生じさせ、この後のあきと佐吉の関係性の変化を暗に示そうとしている。

問6 次の【資料】は本文の作者・幸田文の随筆「私の音」の一節で、台所について作者の父が語っていたことを回想している場面である。また、【生徒の会話】は、本文と【資料】を読んだ生徒たちが話し合っている場面である。これらを踏まえて、後の問いに答えなさい。

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

【見たい展開だけを見たい、心を揺さぶられたくない】

映像視聴の快適主義が極まってくると、ラノベ同様「自分が想定した展開を見たい」という視聴者のワガママが顔を出し始める。その理由としてよく聞かれるのが、「気持ち悪くされたくない」だ。①

ヒアリングしたある女性（30代）は、ドラマを観る場合はあらかじめ最後まで読む。先々に出てくる登場人物の顔と名前とプロフィールもすべて頭に入れておく。その上で第1話から見始める。②

「ミステリーもので、『この人、殺されるのかな？ 助かるのかな？』ってドキドキするのが苦手なんです。突然殺されてびっくりさせられるのも嫌。込み入った話についていけないって『え、これどういう意味だっけ？』ってなるのも気持ち悪いから避けたい。娯楽のために観てるのに、それだと全然楽しめないじゃないですか」

彼女にとっては、「めくるめく展開」や「予想もしないどんでん返し」や「複雑で込み入った物語」はすべて不快。③

彼女にとって好ましい物語とは、「思っていた通りになる」物語である。である以上、「思っていた通りの話はつまらないですよ」とか「思っていたのと違う展開になるからおもしろいんじゃないですか？」と言ったところで、説得することはできない。ジェットコースターが苦手な人に「あんなに楽しいのに、なんで？」と聞くのに等しい。愚問である。④
ある大学生は、「高校生の妹が『心が揺さぶられるのが嫌だから、泣く映画かどうか先に知ってから観たい』と言っていて驚いた」と報告してくれた。これも「気持ちを乱されたくない」の一形態だ。

【 X 】

「心が揺さぶられる」状態を避けるメンタリティーのバリエーションとして、昨今は「共感性羞恥」がポピュラーな感覚として共感者を増やしつつある。

【資料】

台所には是非とも音が生じる。その音を怖じたり恥じたりしないようになれ。厨房の音を美しくしろ、台所の音をかわいがれ。台所はたべるうまさをつくるどころだ、うまい音があつていいはずじゃないか、とそういった。

（幸田文「私の音」による。）

（注）※ 怖じたり…びくびくおそれたり。こわがったり。

【生徒の会話】

生徒A 小説を読んで、料理をする様子が細かく描写されているのがとても印象に残ったよ。

生徒B 【資料】を読むと、作者の父の考えが本文に反映されていることがわかるね。

生徒C 不必要に水を出し続けることを、佐吉が「Ⅰ」と批判的にとらえていることにもそれが表れているよ。

生徒B そうだね。佐吉の料理に対する考え方やあきの台所仕事には、作者の父が求めている美しい音が象徴されているように感じられるね。

生徒A なるほど。それってつまり、Ⅱ ということなんだね。

生徒C そうだろうね。あきが「静かな台所をする女」として描かれているのも、作者の父の考えと重なるところがあるよ。

（Ⅰ）空欄 Ⅰ に当てはまる語句を小説の本文中から五字で抜き出しなさい。

（Ⅱ）空欄 Ⅱ に当てはまる発言として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 愛情をかけて料理をすれば、その音が「たべるうまさ」を引き出す
イ 台所の音を怖じたり恥じたりせずに料理すれば、音がしなくなる
ウ 料理の工程を一つ一つ丁寧に行うことが、「うまい音」につながる
エ 台所仕事を一生懸命に行えば、台所の音をかわいがることができる

他人が失敗したり、恥をかいたりしているのを見ると、それがフィクションの中の出来事であっても自分まで恥ずかしい気持ちになってしまうというものだ。共感性羞恥を強く感じる人は、TV番組のドッキリ企画すら見るのができない。楽しめないのだ。ある種の人々が映像作品に求める「快適主義」に近いものがある。

そもそも、映像作品の良し悪しを判断する基準が「登場人物に共感できるかどうか」に寄りすぎている昨今の傾向も、気にかかる。たしかに、共感できるかどうかは物語の魅力のひとつではある。Ⅰ 一方で、到底共感できない人物の行動を目の当たりにすることで、人間という存在がいかに多様で複雑であるかを、畏怖や敬意や驚嘆とともに理解する。これも鑑賞行為の豊かさを構成する、欠くべからざる要素だろう。

この世界には自分とまったく考えの異なる「他者」がいて、彼らは自分とまったく異なる行動原理に従って生きている。その価値観に同意する必要はないが、その価値観の存在は認めなければならぬし、尊重しなければならぬ。尊重には「向き合い、理解する」義務も含まれる。Ⅱ、物語や言説の価値を共感だけに求める者は、「共感できない価値観に向き合い、理解に努める」ことに慣れていない。それには大きなエネルギーを要する上、コストが悪い（快適ではない）からだ。

結果、自分の考えを補強してくれる物語や言説だけを求め、ただただそれを強化することになる。その先にあるのは、他者視点の圧倒的な欠如だ。他者に対する想像力の喪失だ。彼らは「自分とは違う感じ方をする人間がこの世にいる」というきわめて当たり前の事実を、なぜか忘れてしまう。もしくは、そういう人間を安直に「敵認定」する。

やや特殊ではあるが、こんなケースを紹介しておこう。とある脚本家ワークショップの話。ある既存の小説を映像用のシナリオに脚色するという課題で、脚本家志望の20代男性が担当講師に言った。

「見ていてつらくなるシーンは、カットしたいと思います」
驚いた講師が理由を聞くと「観ている人を嫌な気分になせたくないじゃないですか」との答え。
彼はまた、オリジナルシナリオを書く課題でこう言い放った。

d「男は書けません。女の子だけが出てくるシナリオを書きます」
仰天した講師がまたもその理由を聞くと、「かわいい女の子にしか興味ないので。」

彼を「変だ」というのは簡単だが、世の中には、ただただ観客の快適、あるいは快楽を満たすことに全精力を注いだ商業作品が山ほどあるのも事実だ。その事実を前にして、彼をどう責めることができるのか。

そしてこの話でもっとも驚くべきなのは、この彼が「自分がシナリオを書く作品の観客は、自分と完全に同じ感性の持ち主である」と、露ほども疑っていないということである。

(稲田豊史『映画を早送りで観る人たち』による。設問の都合上、一部改変してある。)

(注) ※1 ラノベ：ライトノベルの略語。娯楽小説のジャンルの一つ。

※2 メンタリティ：心。精神の状態。

※3 バリエーション：ここでは、変種、変形。

※4 コスパ：コストパフォーマンスの略語。支出した費用とそれによって得られたものとの割合。

問1 二重傍線部ⅰ「複雑で」、ⅱ「苦手な」は同じ品詞である。ⅰ・ⅱと同じ品詞が用いられている文を、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 雨上がりに大きな虹が出た。

イ 図書館では静かにしましょう。

ウ 校庭の花が美しく咲いている。

エ 最後は皆で思いきり笑いたい。

問2 空欄Ⅰ、Ⅱには同じ接続語が入る。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア あるいは イ しかし ウ たとえば エ つまり

問6 傍線部③「見ていてつらくなるシーン」は、カットしたいと思います」とあるが、この発言をした脚本家志望の男性の意図として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 自分の作品を観てくれる人たちの快適さや快楽を満たすために、自分の感性に従い原作を脚色したいという思い。

イ 自分の価値観に共感できない人のために、自分の価値観を改めた上で、原作を脚色するのは仕方がないという思い。

ウ 自分とは違う感じ方をする人間がいるという事実を受け入れ、その人たちにも自分の作品を届けたいという思い。

エ 自分の作品を観る人に嫌悪感を与えることに責任を取れないため、与えられた課題には取り組みたくないという思い。

問7 空欄「X」にはそれ以降の文章の内容を踏まえた小見出しが入る。その小見出しとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 商業至上主義と自主性の欠如

イ 快適至上主義と自主性の欠如

ウ 行動至上主義と他者性の欠如

エ 共感至上主義と他者性の欠如

問8 本文の内容に合うものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 筆者は、人々が気持ちを乱されたくないという思いを優先するあまり、快適主義に陥ってしまうことを心配している。

イ 筆者は、娯楽のために自分の見たいものだけを見る人に対して、他の作品の良さを説明する必要はないと考えている。

ウ 筆者は、登場人物に共感できるかどうかで映像作品が評価されている最近の風潮について違和感を抱いている。

エ 筆者は、多くの脚本家が脚本家自身と同じ感性の人だけを対象とした商業作品を大量に作っている現状を憂えている。

問3 次の波線部a～dの語を用いた短文である。本文中の意味とは異なる意味で用いられているものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 波線部a「到底」……彼のレベルには到底追いつけない。

イ 波線部b「驚嘆」……私は彼女の勇気に驚嘆した。

ウ 波線部c「安直」……すぐそこに安直な食堂がある。

エ 波線部d「仰天」……彼はその知らせに仰天した。

問4 次の一文は本文中の1、4のどこに入るか。最も適当な箇所を一つ選び数字で答えなさい。

ゆえに避けたいのだ。

問5 傍線部①「共感性羞恥」とあるが、本文の説明を踏まえた「共感性羞恥」の例として適当なものを、次のア～エのうちからすべて選び記号で答えなさい。

ア 友人が部活動の大会で優勝するのを目の当たりにし、負けてはいられないと思った。

イ 一緒に映画を観た友人が感動して泣いているのを見て、なぜだかわからないが自分まで涙が出た。

ウ ドラマで主人公が恥ずかしがりながらセリフを言う場面があり、いたたまれず見るのをやめた。

エ コンビニのレジで財布を忘れて慌てている人を見て、思わず目を背けてしまった。

オ 信号無視をして注意されている人を見て、自分は絶対にしないでおこうと誓った。

問9 傍線部②「敵認定」する」とあるが、本文中の「彼ら」はなぜそうするのか。「自分」、「他者」、「価値観」の三つの語を用いて、「……から。」に続く形で、三十五字以上五十字以内で答えなさい。

【三】 次の文章は、『竹取物語』の一場面である。これを読んで後の問いに答えなさい。

1 帝、にはかに日を定めて、御狩に出で給ふて、かぐや姫の家に

入り給ふて見給ふに、光みちて、きよらにてゐたる人あり。

「これならむ」とおぼして、近く寄らせ給ふに、逃げて入る袖を

とらへ給へば、面をふたぎて候へど、初めよく御覧じつれば、

類なくめでたくおぼえさせ給ひて、「許さじとす」とて、

ゐておはしまさむとする。

（かぐや姫は、自身がこの国の人ではないので、帝のお供として
ついて行くことはできないという内容のことを申し上げる。）

2 帝、「なか、さあらむ。なほゐておはしまさむ」とて、御輿を

寄せ給ふに、このかぐや姫、きと影になりぬ。「はかなく、口をし」

とおぼして、「げに、ただ人にはあらざりけり」とおぼして、

「さらば、御ともにはゐて行かじ。もとの御かたちとなり給ひぬ。

問4 次の表は、本文の2以降の内容をまとめたものである。空欄
A、Bに当てはまる語句を本文中から抜き出しなさい。

帝の見た状況	帝の心情	帝の言葉
・かぐや姫が「A」 のように見えなくな ってしまった。	・はかなくも消えてし まうなんて、残念だ なあ。	・連れては行くまい。 ・せめてもとのお姿に なってください。
・本当に「B」で はないのだなあ。		

【四】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

※1 魏武、行役して汲道^{きみち}を失ひ、三軍皆渴す。

※2 乃ち令^して曰く、前に大いなる梅林有り、子饒^{しりょう}くして

甘酸^{かんさん}なり。以て渴^{かつ}を解くべしと。士卒^{しそ}之^を聞き、

口皆水を出す。此に乘じて前原^{ぜんげん}に及ぶことを得たり。

（『世説新語』による。設問の都合上、一部改変してある。）

- （注）※1 魏武…魏の武帝。名は曹操。
※2 行役…徴兵されて、土木事業や国境守備に当たること。
※3 汲道…水場に通ずる道。

それを見てだに帰らなむ」と仰せらるれば、かぐや姫、もとのかたちに
せめてそれだけでも見て

なりぬ。帝、なほめでたくおぼしめさるる事、せきとめがたし。

（帝は輿に乗った後で歌を詠んでかぐや姫に送る。）

帰るさの行幸物憂くおもほえてそむきてとまるかぐや姫ゆゑ
帰るのがなんともつらく思えて、後を振り向いて止まってしまう。私の命令に従わない
かぐや姫、あなたのせいだ。

（『竹取物語』による。設問の都合上、一部改変してある。）

（注）※ 輿…乗り物。かじ。

問1 波線部「にはかに」を、現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書
きなさい。

問2 二重波線部a「日」を定めて、b「逃げて」の動作の主体の組み合わせ
せとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えな
さい。

ア a 帝 b かぐや姫 イ a 帝 b 帝
ウ a かぐや姫 b かぐや姫 エ a かぐや姫 b 帝

問3 傍線部①「かぐや姫」を別の表現で表した部分を、本文中から九字で
抜き出しなさい。

問5 本文の内容と一致するものとして最も適当なものを、次のア～エのう
ちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 帝は、「御狩に出で給ふ」ふりをして、かぐや姫の家に行ったが、美
しいと評判のその人に会えなかったので和歌を詠んだ。

イ 帝は、かぐや姫が「面をふたぎて」逃げようとするので、美しいと噂
のその顔を一度だけでも見てみたいと思い、和歌を詠んだ。

ウ 帝は、かぐや姫に「なほゐておはしまさむ」と強く命令したが、何度
も断られたため恨みを込めて和歌を詠んだ。

エ 帝は、かぐや姫を連れて帰ることができなかったが、かぐや姫のこと
を「なほめでたく」思う気持ちがあふれ、和歌を詠んだ。

問1 傍線部①「行役して汲道を失ひ」とあるが、このように書き下すこと
ができる返り点の付け方として正しいものを、次のア～エのうちから一つ
選び記号で答えなさい。

ア 行役失汲道 イ 行役失汲道
ウ 行役失汲道 エ 行役失汲道

問2 傍線部②「令して曰く」の内容を抜き出し、始めと終わりの三字を答
えなさい。

問3 本文の内容からわかることの説明として最も適当なものを、次のア～
エのうちから一つ選び記号で答えなさい。
ア 武帝の率いる兵士たちは、大雨のため道に迷っていた。
イ 兵士たちは武帝の言葉により梅の味を連想した。
ウ つばを出すことを命令された兵士たちは、知恵をしばった。
エ 武帝はほうびとして兵士たちに梅の果実を支給した。

【五】 Aさんたちは、総合的な学習の時間に、「社会人基礎力の資料」をもとにグループで話し合っている。次の【社会人基礎力の資料】と【話し合いの一部】を読んで後の問いに答えなさい。

【社会人基礎力の資料】

社会人基礎力とは、「職場や地域社会の中で多くの人々と接触しながら仕事をしていくために必要な能力」のことである。社会や産業の変化のスピードが速く、働き方やキャリアの多様化が進む中で、自分らしく働き、自らの能力を発揮するために必要とされている。

前に踏み出す力（アクション）



・主体性
・働きかけ力
・実行力

考え抜く力（シンキング）



・課題発見力
・計画力
・創造力

チームで働く力（チームワーク）



・発信力
・傾聴力
・柔軟性
・規律性
・状況把握力
・ストレスコントロール力

（経済産業省「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」報告書）をもとに作成）

【話し合いの一部】

- Aさん 前回、「社会人基礎力」について学びました。今、社会は目まぐるしく変化し、年々そのスピードは速くなっているとされています。①例えば、みなさんは新しい情報がどんどん入ってきて、手に入れた情報がすぐに古いものになってしまっていると感じた経験はありませんか。
- Bさん はい、あります。最近SNSで見た情報を友達に話したら「その情報はもう古いよ」と言われました。常に新しい情報を手に入れないと、置いていかれる気がします。
- Aさん そうですね。時代に取り残されず、自分らしく生きるために、今日は社会人基礎力の3つの要素について、考えたことや感じたことを話し合ってみましょう。
- Cさん 私は、「前に踏み出す力」が気になります。普段の私は失敗するのが怖くて、なかなか実行に移せず、受け身になってしまうことが多いです。どのように克服していいのかわかりません。
- Dさん 私も以前まではCさんと同じような悩みを抱えていました。でも、最近は「失敗は成功のもと」と考えるようにしています。たとえ失敗してもそこから得たことを次にいかしていけばいいんだと考えるようにしています。Cさんもそう考えると気が楽になって、実行に移しやすくなるのではないのでしょうか。
- Aさん ほかに、意見がある人はいますか。
- Bさん やってみると案外うまくいくということもあるので、「迷ったらやってみる」というのはどうですか。私も消極的になりやすいのですが、思いきって体育祭実行委員に挑戦しました。いくつか失敗しましたが、みんなに楽しんでもらえる体育祭にでき、さまざまな課題に対応することで私自身も成長できました。やる前は不安でしたが、先生や地域の方からも「大成功だったね」という言葉を②もらいました。
- Cさん なるほど。みんなも同じ悩みを持っていたことを知って安心しました。そして、考え次第で自分の気持ちや行動は変わるのだと思いました。アドバイスを参考に、少しずつ「前に踏み出す力」を身に付けていきたいと思います。
- Aさん Cさんの言うとおりですね。すぐに身に付くものではないと思うので、日ごろから意識することが大切ですね。では、次に他の2つの要素についても考えてみましょう。

- 問1 傍線部①「例えば、みなさんは新しい情報がどんどん入ってきて、手に入れた情報がすぐに古いものになってしまっていると感じた経験はありませんか。」という発言について説明したものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。
- ア 具体的な体験例を示すことで、話題の捉え方を共有しようとしている。
- イ 具体的な体験例を示すことで、話し合いの目的を確認している。
- ウ 具体的な状況を提示することで、イメージをもたせやすくしている。
- エ 具体的な状況を提示することで、原因を突き止めようとしている。
- 問2 傍線部②「もらい」を「しました」につなげるように謙譲語に改めなさい。
- 問3 話し合いを進めるうえで、Aさんはどのような工夫をしたか。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。
- ア 全員が話し合いに参加できるよう、一人ひとりに発言を求めた。
- イ 話題がそれた場合には、話し手の発言をささげつつ元に戻した。
- ウ 発言に対して、具体化や言い換えを促したりして、内容を深めた。
- エ 発言を促すために質問したり、話し合いの方向性を決めたりした。

- 問4 【話し合いの一部】におけるそれぞれの生徒の発言の特徴として適当でないものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。
- ア Bさんは、自らの経験や体験を述べ、感じたことや学んだことを助言しつつ、全員に同意を求めている。
- イ Cさんは、Aさんの発言を受け、資料から気になる力を選び、今抱えている悩みを打ち明けている。
- ウ Cさんは、他者の意見を受け入れ、考えたことを自分の言葉でまとめている。
- エ Dさんは、自分と同様の悩みを抱えていたCさんに理解を示すとともに、自身の考え方を提示している。

- 問5 あなたの「これから特に伸ばしたい力」について、「社会人基礎力の資料」で示されている「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」から一つ選び、次の〈条件1〉～〈条件4〉に従って文章を書きなさい。

- 〈条件1〉 二段落構成で、一五〇字以上一八〇字以内の文章とし、題名は書かずに本文から始めること。
- 〈条件2〉 原稿用紙の適切な使い方に従い、漢字や仮名遣い、句読点や記号などは適切に用いること。
- 〈条件3〉 第一段落では、三つの力のうちどれを選んだかを明記し、その力を伸ばしたい理由を書くこと。
- 〈条件4〉 第二段落では、高校生活での場面を想定し、その力をどのように伸ばしたいかを具体的に書くこと。ただし、【話し合いの一部】に出てきた体験談を模倣しないこと。
- （なお、どれを選んだかで、採点に差がつくことはない。）

正 誤 表

追加

内容：「国語」問題用紙9ページ 大問【三】問5

選択肢「イ」中の「噂」のルビ「うわさ」を追加する。

【追加】

【三】問5	うわさ
選択肢 イ	噂

訂正

内容：「国語」問題用紙9ページ 大問【四】

本文4行目「前原」を「前源」に訂正する。

【誤】

【四】本文4行目	……前原に及ぶことを得たり。
----------	----------------

【正】

【四】本文4行目	……前源に及ぶことを得たり。
----------	----------------

令和七年度 国語 正答例

【二】														配点	備考
問1		a したく		1											
問2		ア		2											
問3				1	「台所へ出て仕事を しているような気 持」も可。										
問4		ア		2											
問5		1 イ		2											
問6		① 未熟なまね		2											
問6		② ウ		2											
【二】															
問1	イ	1													
問2	イ	1													
問3	ウ	1													
問4	3	2													
問5	ウ・エ	2	順不同。												
問6	ア	2													
問7	エ	2													
問8	ウ	2													
問9	作文の採点基準については割愛	4													

【三】													配点	備考
問1	にわかに		1											
問2	ア		1											
問3	き	よ	ら	に	て	ゐ	た	る	人	2				
問4		B	A							1	1			
		ただ人	影							1	1			
問5	エ								2					
【四】														
問1	ア								1					
問2	始め	前	に	大	く	終わり	く	べ	し	2				
問3	イ								2					
【五】														
問1	ウ								2					
問2	いただき		ました						2					
問3	エ								2					
問4	ア								2					
問5	作文の採点基準については割愛						6							
										「普通の人、 「ただび」とも 可。				
										「ちようだい し、 「た り、 「頂 も可。 漢字				